

Volume 1 — Chorus



音楽科

授業改善のための
デジタルコンテンツ

【誰にもできるステップアップ教材】

●コーラス編

Contents

- 発刊にあたって ... 1
- 教材をデジタル化する意味 ... 1
- **Concept** ... 2
- ステップ一覧[コーラス編/わらべうた編] ... 3
- 教材の使い方 ... 4
- カノンを扱うことの意義 ... 4
- **Manual**
 - バッハによるカノン ... 5
 - かえるのがっしょう ... 7
 - Dona Nobis Pacem ... 9
 - 夏が来た ... 11
- 音楽用語 + 参考文献 ... 13

発刊にあたって

プロジェクト顧問 木立 英行（大阪教育大学理事）

教員は、教育の専門家として教科の指導方法に自信を持たなければなりません。そのためには長い実践経験と深い考察との両方が必要です。ことに、実技を伴う教科の指導力を養うには実践の場に身を置く必要がありますが、その場合は指導者に恵まれる必要があります。研修機会は様々に提供されていますが、忙しい教職にある身では、自分にあつた指導者に会うことすら容易ではありません。

大阪教育大学は、インターネットやDVD等の新しい媒体を活用して教科の指導方法や教材を作成し、学外の方々の利用に供することを始めました。まず、音楽教育講座から、『合唱指導法』を提供させていただきます。

この教材は、公開講座での実地指導、文章による理論的な説明と一体となって、本学の音楽教育講座寺尾 正教授の合唱の指導法を表すものです。

是非とも、本編を現職の先生や関心のある方々に役立てていただくことをお願いするとともに、皆様のご批判や改善への提案、ご要望をいただき、今後予定している続編や本編の改訂に活かすとともに、実践現場にある方々のお考えを踏まえた、より良い教科教育の教育と研究に役立てさせていただきたいと考えております。

教材をデジタル化する意味

プロジェクトスーパーバイザー 田中 龍三（大阪教育大学教授）

このデジタル教材は、本学の「次世代を育てる全領域デジタル教材の展開」プロジェクトの一環として作成された教材です。教材をデジタル化する目的はいろいろありますが、この教材では、音楽活動の基礎的な能力となる知覚・感受の活動がよりよく行われるために、音楽の作られ方と音楽の感じや雰囲気との関係を分かりやすく示すことや、実際に行われる音楽授業の場面を想定し、子どもの授業への集中が保てるよう、学習のねらいに適した箇所を、ストレス無く瞬時に提示することなどをデジタルの特性を生かして実現することを目的としています。

つまり、この教材をもちいることで、コーラスでカノンの課題に取り組む際、メロディーの重ね方や歌い方の変化に伴って、音楽の感じや雰囲気が変わっていくことに気づくことで、自分の気分や気持ちの変化、または高まりを楽しみながら、さまざまなカノンが歌える技能を身に付けることをめざしているのです。

本学音楽教育講座では、今後も地域の先生方と連携をしながら、音楽科授業の改善をめざした、さまざまなデジタル教材の開発を進めていきたいと考えています。今後、新たに開発するデジタル教材が学校現場のニーズに応えられるものとなるためにも、このデジタル教材を実際に授業で使っていただき、忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと思います。

Concept

「音楽の授業をうけもつことになったけれど、何をしたいのかわからない・・・」
 「教科書に載っている合唱曲をやってみたけど、うまくいかない・・・」
 「子どもたちが、楽しく、さらに上手に歌うためにはどんな練習をしたらいいの・・・？」

この音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ【誰にもできるステップアップ教材】は、そのような壁にぶつかったときに、ひとつのアドヴァイスになることを目的とした教材です。音楽の専門教育を受けていなくても、ピアノが上手でなくても、子どもの歌唱の基礎力を高めることができます。さらに、子どもに身近なわらべうたを中心に据えることによって、それに伴った動きや手遊びなどをおおして、聴く耳を育て、歌いあう喜びを育む助けとなります。この教材を子どもと共に使う前にぜひ、先生方が実際に歌い、手遊びを体験してみてください。

● わらべうた ————— 小島 律子（大阪教育大学教授）

わらべうたは日本語から生まれたものであり、日本の音楽の源です。しかも、わらべうたでは、音楽がしゃべり言葉と生活でのからだの動きと一体となって存在しています。日本語を母語とする私たちの身体に染み付いた音楽性をもったものといえます。だから、だれでもわらべうたは苦もなく歌えます。実は、わらべうたで子どもたちが遊びに興じて無意識にやっていることを取り出して、音楽の世界へ連れて行くことができるのです。たとえばちょっとずらして歌い始めればカノンになります。そこに、はやしことばを繰り返せば、ふしに伴奏がつくように音楽に厚みがでできます。わらべうたはシンプルな素材だけに、いろいろな料理法が使えます。そんなことをして楽しんでいると、音程もしっかりし、リズムもめりはりをもって、声も出てきます。音楽的な能力が育っていくのです。

ただ忘れてはならないのは、わらべうたは遊びだということです。わらべうたでうんと遊んだことがなければ、単なるうたになってしまいます。わらべうたで遊ぶことでひとのかかわりを経験し、わらべうたを歌うことが楽しくなるのです。

● コーラス ————— プロジェクト代表 寺尾 正（大阪教育大学教授）

うたは人間の心の内にある喜び、悲しみ、怒り、祈り、愛などを声に表し、聴く人に訴えるものです。ましてや、コーラスは多くの人と共にうたい合い、その思いを共有するという集団行為です。うまく演奏できた時のメンバーで分かち合う喜びには格別なものがあります。

しかし、コーラスを練習する多くの場面で、更なる上達を望んでいるにもかかわらずなかなか思うに任せない現実があります。ここで心に留めなければならないのは、うまくいかない場合、必ず原因があるということです。うたう人も指導する人もその原因が見つけられないのです。

この初回のコーラス編では、シンプルで取り組みやすいカノン（輪唱）の課題を取り上げます。カノンの良さは、各声部が同等の立場でその程度に応じて声部を増やしたり減らしたりしながら練習できることです。これらのささやかな課題の中に、合唱技能の基礎を養成する最も重要なポイントが隠されています。注意深く取り組みれば必ずリズムの躍動、美しい響きの輝きを見つけれられるでしょう。

また、この教材はシリーズ化し、視聴者・利用者皆様のご意見をもとに新たな問題（不足点・困難なこと）を焦点化し、それに対応したヴァージョンアップした教材を配信していきたいと考えています。さらに教材に沿った公開講座を行ったり、実際にこの教材を実践された利用者への取材をお願いしたり、学生を中心としたスタッフが実際に学校現場等に出向いてのアウトリーチ演奏等も企画していく予定です。

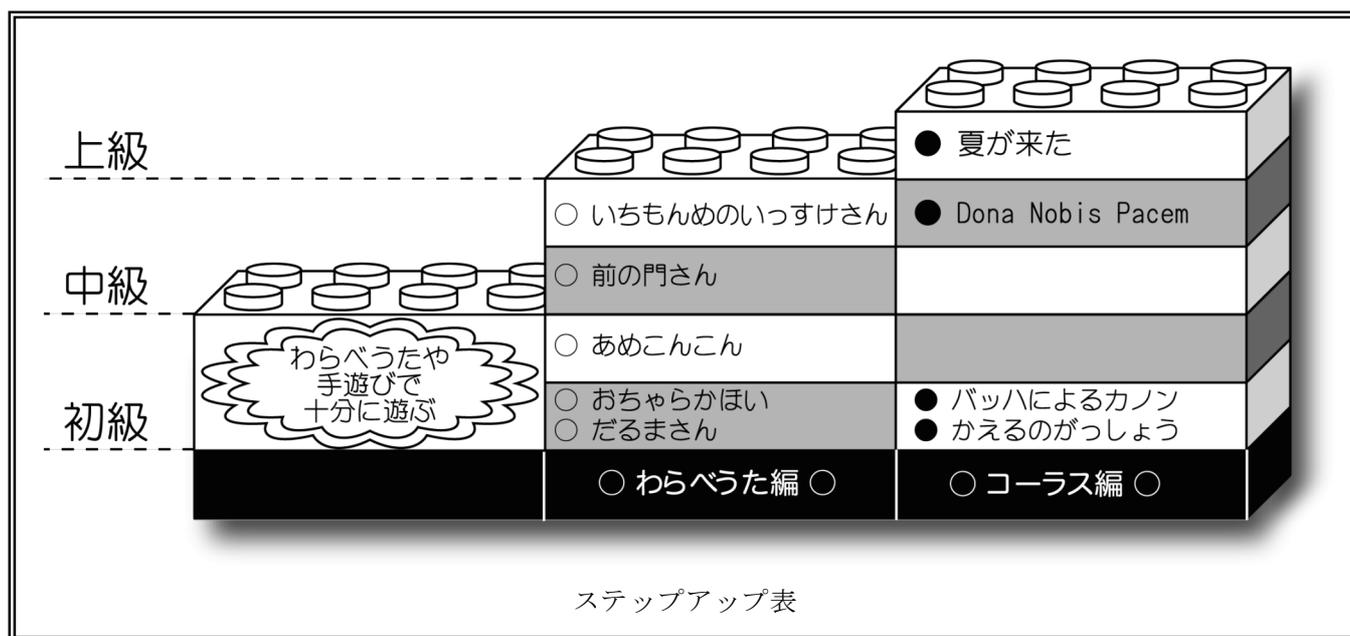
ステップ一覧 ●コーラス編

- ①バッハによるカノン Step 1 ユニゾン 【基礎の基礎！正しく歌おう】
 Step 2 2声カノン 【他のパートを聴いて歌ってみよう】
 Step 3 3声カノン 【ハーモニーを感じて歌ってみよう】
 Step 4 4声カノン 【4つに重なり合う声を聴きながら歌ってみよう】
- ②かえるのがっしょう Step 1 ユニゾン 【基礎の基礎！正しく歌おう】
 ～隣同士の音に気をつけよう～
 Step 2 2声カノン 【他のパートを聴いて歌ってみよう】
 ～音が上がる時も下がる時も正確に歌おう～
 Step 3 4声カノン 【ハーモニーを感じて歌ってみよう】
 ～4つのパートが同じピッチで歌えるようになる～
- ③Dona Nobis Pacem Step 1 ユニゾン 【基礎の基礎！正しく歌おう】～明るくのびのびと～
 Step 2 3声カノン 【他のパートを聴いて歌ってみよう】
 ～ずらしただけできれいなハーモニーが聴こえてくるよ～
- ④夏が来た Step 1 メロディーユニゾン 【音の跳躍と音域の広がり注意到して歌おう】
 Step 2 オスティナートユニゾン 【短いフレーズを繰り返し歌ってみよう】
 Step 3 オスティナートカノン 【お互いのパート聴きながら歌おう】
 Step 4 メロディーユニゾン 【3つのパートのテンポを合わせて歌おう】
 +オスティナートカノン
 Step 5 メロディー2声カノン 【お互いのパートを聴きながら歌おう】
 Step 6 メロディー4声カノン 【4つのパートの重なりを感じながら歌おう】
 Step 7 メロディー4声カノン 【6つのパートの重なりを感じながら歌おう】
 +オスティナートカノン

○わらべうた編

- ①おちゃらかほい Step 1 【みんなで声を合わせて歌おう】～いっぱい遊んでいっぱい歌おう～
 Step 2 【歌で追いかけっこをしてみよう】～つられずに歌えるかな？～
- ②だるまん Step 1 【みんなでメロディーを歌おう】～いっぱい遊んでいっぱい歌おう～
 Step 2 【メロディーに歌で伴奏をつけてみよう】～とても簡単！繰り返すだけ～
 Step 3 【メロディーと伴奏を一緒に歌おう】～うまくあわせられるかな？ともだちの声をよく聴こう～
 Step 4 【伴奏をパワーアップさせよう】～ずらして歌うだけでおもしろい！～
 Step 5 【パワーアップした伴奏にメロディーをのせてみよう】～いろいろに重なり合う声が聴こえるかな？～
- ③あめこんこん ④前の門さん ⑤いちもんめのいっすけさん
 Step 1 【みんなでメロディーを歌おう】～何度も歌って覚えちゃおう～
 Step 2 【メロディーに歌で伴奏をつけてみよう】～とても簡単！繰り返すだけ～
 Step 3 【メロディーと伴奏を一緒に歌おう】～うまくあわせられるかな？ともだちの声をよく聴こう～
 Step 4 【伴奏をパワーアップさせよう】～ずらして歌うだけでおもしろい！～
 Step 5 【パワーアップした伴奏にメロディーをのせてみよう】～いろいろに重なり合う声が聴こえるかな？～
 Step 6 【今度はメロディーもパワーアップさせよう】～つられずに歌えるようになるかな？～
 Step 7 【メロディーも伴奏もパワーアップ！】～4つに重なり合う歌声を聴きながら歌えるかな？～

教材の使い方



- ▼ 初級から取り組むことをおすすめします。学年・校種等にこだわることはありません。
- ▼ 先生や児童、生徒のレベルに応じて、曲やSTEPを選択してください。
(例：パートを減らす、オスティナートを付けない)
- ▼ わらべうた編・コーラス編のどちらも並行して行うことで、より効果的にステップアップできます。

カノンを扱うことの意義

《CHECK》 歌うときの大切なポイント

- ① 正確なピッチ（音程）で歌うこと
- ② 正確なリズムで歌うこと
- ③ 聴きあって歌うこと

今回はわらべうた編でもコーラス編でもカノン（音楽用語ページ参照）になっているものを扱いました。旋律の模倣が美しく聴こえるためには、各パートが正確な音の高さ、リズムで歌うことが必要です。またカノンは複数のパートで歌うため、他のパートを意識し、音を聴きあいながら歌うことが求められます。これらはうたを歌う上で必要な要素であり、カノンの課題に取り組むことによって、うたを歌うときに必要な基礎的な力を育てることができます。このような力をつけることで子どもたちはただ声を出して歌うという楽しさだけでなく音楽の美しさを感じながら歌うことができるようになるでしょう。そうすることで、子どもたちはますますうたが楽しくなり、更に意欲的にうたを歌うようになると考えられます。

Manual ■ バッハによるカノン

この曲は、ヨハン・セバスチャン・バッハによって作曲されたとされるカノンです。5音から成る音階でできた、短く分かりやすいメロディーによるカノンですが、この単純な課題の中に、コーラスの技能を育てるとても大切な要素が詰まっています。発声練習としても、コーラスの響きを作る練習としても、大変有効な曲です。授業の最初の5分を使って練習するなど、短い時間で継続して扱ってください。また歌うときは、「マ」や「ラ」など自由に工夫して歌いましょう。

Step 1

まずは全員で練習する

【ユニゾン】

- ・音が上行するときは、音程が下がりがちになるので明るく、積極的に。
- ・音が下行するときも、音程が下がりがちになるので慎重に。
- ・2つ目や4つ目の八分音符の音は短くなりがちなので、丁寧に、長さを意識して歌う。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

Step 2

2つに分かれて歌う

【2声カノン】

- ・2つ目や4つ目の八分音符の音は、音程が不安定になる傾向があるので注意する。たいていの場合、常に鳴っているドミソの響きの圧力によって、音は下がりがちになる。
- ・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
- ・後から加わるパートは前のパートのピッチをよく聴いて、その響きに加わる。従って、始めに歌いだすパートは、正確なピッチで歌い始めないといけないのでとても重要。
- ・テンポがずれないように意識する。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

☞ピッチ：音高（音の高さ）

Step 3

3つに分かれて歌う

【3声カノン】

- ・**Step 1、2**の注意事項と同じ。

Step 4

4つに分かれて歌う

【4声カノン】

- ・**Step 1、2**の注意事項と同じ。

★半音ずつ音を上げて練習しましょう

★うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう

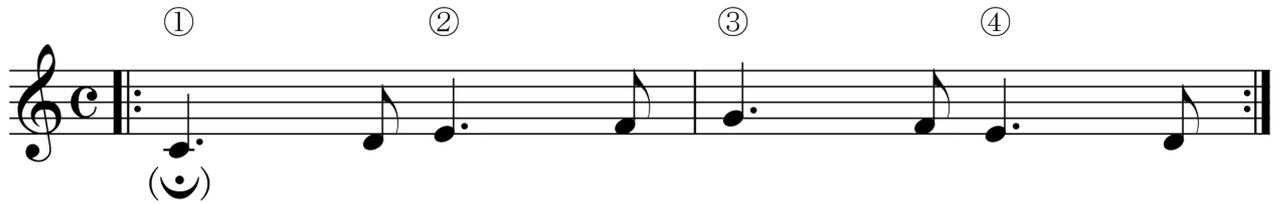
《LEVEL UP》

- 指名された一人が最初に歌いだし、他の人は各自好きなタイミングでハーモニーに加わる。

⇒この方法で、お互いの声を聴き、ハーモニーの中での自分の声を意識することができるようになります。

バッハによるカノン

J.S.Bach



この楽譜は下記の楽譜（カルドシュ・パール著『合唱の育成・合唱の響き』p.92）より今回の課題レベルにあわせて、一部分を抜粋しました。

下記の課題については、今後も教材として継続して扱っていく予定です。



Manual ■ かえるのがっしょう

「かえるのがっしょう」は、教科書でも取り上げられているカノン（輪唱）の教材です。この曲は、もともとドイツ民謡ですが、岡本敏明により日本語で歌いやすく訳されたものが一般的によく知られています。親しみやすく、簡単なメロディーですぐ歌えてしまうため、技術的な指導を抜きに、‘楽しい’だけで終わってしまいがちな教材です。しかし、この曲を技術的な面からもしっかり指導すれば、美しい響きのカノンを子ども達に体験させることができます。

Step 1

まずは全員で練習する

【ユニゾン】

- ・音が上行するときは、音程が下がりがちになるので明るく、積極的に。
- ・音が下行するときも、音程が下がりがちになるので慎重に、お腹で支えて歌う。
- ・この曲は音が順次進行している。隣同士の音というのは、音程が不安定になりやすい傾向があるので、よく子ども達の歌声を聴いて指摘してあげること。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

☞順次進行：ある音が隣の音へ進行すること。

Step 2

2つに分かれて歌う

【2声カノン】

- ・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
- ・後から加わるパートは前のパートのピッチをよく聴いて、その響きに加わる。従って、始めに歌いだすパートは、正確なピッチで歌い始めないといけないのでとても重要。
- ・テンポがずれないように意識する。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

☞ピッチ：音高（音の高さ）

Step 3

4つに分かれて歌う

【4声カノン】

- ・**Step 1、2**の注意事項と同じ。

- ★うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう。
- ★歌い方について指導の際は、ジェスチャーなどを用いると子どもに分かりやすく伝わります。
- ★今回は2声と4声のカノンのみを歌いましたが、3声でも5声でもそれ以上でも、子どもの様子に応じてパートを増やしたり、減らしたりして歌ってみてください。

かえるのがっしょう

ドイツ民謡
作詞 岡本敏朗

① ②
か え る の う た が き こ え て く る よ

5 ③ ④
クワツ クワツ クワツ クワツ ケロケロケロケロ クワツ クワツ クワツ

Manual ■ Dona Nobis Pacem

この曲は、16世紀頃に作曲されたと言われるアメリカの賛美歌です。‘Dona Nobis Pacem’（ドナ ノービス パーチェム）という歌詞だけで曲が作られており、この3つの単語とメロディーさえ覚えれば、誰でも歌うことができる曲です。カノンにしたときのメロディーの重なりが大変美しいため、歌う楽しさや、カノンの楽しさを十分に体験できます。しかし、音の跳躍があり音域も広がるため、正確に歌うには少し練習が必要です。ユニゾンで十分に練習してから、カノンで歌ってみてください。また、うたのピッチを安定させるために、ひとつのパートにリコーダーを加えることも効果的です。

Step 1

まずは全員で練習する

【ユニゾン】

- ・音が跳躍するときには、跳躍した先の音に移る前に、その音をイメージするようにする。そうすることで、跳躍後の音を充実した音で歌うことができる。
- ・高い音から低い音に移るメロディーのとき（例えばレードシラソの部分）は、音が下がりきらない傾向があるので、生徒の歌声をよく聴いて指摘してあげる。
- ・音の跳躍があり音域も広い曲なので、このユニゾンの段階で十分に練習する。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

Step 2

3つに分かれて歌う

【3声カノン】

- ・パート同士の音の重なりを感じながら歌えるようにする。教師も生徒も、パート同士の音の関わり（どのようにメロディーが重なり合っているか）を知ると、ハーモニーを作る上で助けになる。
- ・パート同士が同じピッチで歌い合えるように、お互いのパートをよく聴く。
- ・後から加わるパートは前のパートのピッチをよく聴いて、その響きに加わる。従って、始めに歌いだすパートは、正確なピッチで歌い始めないといけないのでとても重要。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

☞ピッチ：音高（音の高さ）

★うまくいかないときは、ユニゾンに戻って十分に練習しましょう。

また、2声のカノンでも練習できます。

★旋律と和声のかかわり（テクスチャ）を意識して歌いましょう。

Dona Nobis Pacem

われらに平安を

作者不詳 16世紀頃

①

Do - na no - bis pa - cem pa - cem,

5

do - - na - no - bis pa - - - - cem,

9 ②

Do - - - na no - - - bis pa - cem,

13

do - na no - bis pa - - - - cem,

17 ③

Do - - - na no - - bis pa - cem,

21

do - na no - bis pa - - - - cem.

Manual ■ 夏が来た

《夏が来た》は13世紀頃にイギリスで作曲された曲で、楽譜に残る世界最古の合唱曲と言われています。寒くて長い冬が終わって夏を迎えることの喜びを歌い、素朴な中にも生命の躍動が感じられる曲です。また、1972年、ミュンヘンオリンピックの開会式で、このカノンが何百人もの子ども達によって華やかに歌われたことでも知られている曲です。

主となるメロディーを4声のカノンにし、それに加えて伴奏のような役割を果たすメロディー（オスティナート）も2声のカノンで重なります（6声による2重カノン）。一見して難しいことをしているようですが、きちんとステップを踏んで練習すれば、誰でも歌うことができる曲です。

Step 1

まずは全員で
メロディーの練習

【メロディーユニゾン】

- ・音の跳躍があり音域も広い曲なので、このユニゾンの段階で十分に練習する。
- ・言葉をはっきり発音し、明るく。‘Sing’は「シング」ではなく「スィング」と発音する。

☞ユニゾン：全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

Step 2

オスティナートを
練習する

【オスティナートユニゾン】

- ・隣同士の音は、意外にも音程が乱れやすくなる。指導者が生徒の歌声をよく聴き、根気強く指摘する。

☞オスティナート：同じメロディーを繰り返すこと

Step 3

オスティナートを
2つに分ける

【オスティナートカノン】

- ・2つのパートが同じピッチで歌えるように、お互いに聴き合い、音を合わせる事が大切。

☞カノン：同じメロディーをずらして歌うこと（輪唱）

☞ピッチ：音高（音の高さ）

Step 4

Step 1とStep 3を
重ねる

【メロディーユニゾン+オスティナートカノン】

- ・オスティナートから歌いだし、指揮者の指示でメロディーを重ねる。
- ・メロディーとオスティナートのテンポが合うように、お互いに聴き合って歌う事が大切。

Step 5

メロディーを
2つに分ける

【メロディー2声カノン】

- ・2つのパートのピッチが揃うように、お互いに聴きあって歌う。

Step 6

メロディーを4つに
分ける

【メロディー4声カノン】

- ・ここでは4つのパートが循環して、次々に同じメロディーが現れてくる。その違うパートによる同じメロディーが同じように聴こえてくるかを聴き、差があれば指摘する。特に‘Sing, Cuccu!’の箇所各パートが同じ強さやピッチで歌えるように練習する。

Step 7

Step 3とStep 6を
重ねる

【メロディー4声カノン+オスティナートカノン】

- ・6つのパートが違う動きで重なり合っている状態。このときも、すべてのパートが同じテンポを共有できるように集中させる。お互いに聴き合うということが大切。

- ★うまくいかないときは、最初のステップに戻って練習しましょう。
- ★旋律と和声のかかわり（テクスチュア）を意識して歌いましょう。
- ★男声のオスティナートは音域が狭いため、声変わりをした子どもにも歌える曲として適しています。
- ★今回は混声合唱にしましたが、同声合唱で歌うこともできます。

夏が来た

Sumer is icumen in

作者不詳 13世紀イギリス曲
訳詞 プロジェクトオリジナル

♩. = 108

A 1 2

Su - mer is i - - cu - men in; lhu - de sing, cuc - cu!
さあ__ な つ が き た__ よ みんな Sing cuc - cu!

5 3 4

Grow - eth sed and blow - eth med and springth the wu - de nu;
た い よ う み ど り が か が や い て

9

Sing, cuc - - - cu! Aw - - e ble - teth af - - - ter lomb, lhouth
Sing cuc - - - cu! め う し は こ も り で

13

af - ter cal - ve cu; bul - luc ster - teth, buc - ke ver - teth;
た い へ ん だ! お う し は お ど っ て

17

mu - - rye sing, cuc - cu! Cuc - - - cu, cuc - - - cu!
そ れ! Sing cuc - cu! Cuc - - - cu, cuc - - - cu!

21

Wel thu sing - est, cuc - - - cu; ne swik thu na - ver nu.
す て き な う た を い つ ま で も

B 1 2

Sing cuc - - - cu, nu; sing, cuc - - - cu!
Sing cuc - - - cu! nu; sing, cuc - - - cu!

音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。

- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン…など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。

- ピッチ： 音高（音の高さ）

- 順次進行： ある音が音階の隣りあった音、すなわち2度上または下へ進行すること。これに対して、ある音が3度以上離れた音に進むことを跳躍進行という。

- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。

- テクスチュア： 旋律と和声の作曲上の特徴をいう。一般に、ホモフォニーでは、旋律と和声進行を担う伴奏部とが明瞭に区別される。ポリフォニックな書法においてはいくつかの声部が独立して、あるいは互いに模倣しながら動く。このような音楽構造上の特徴をおおまかに言い表すもので、例えば声部数によって決定される響きの「厚み」、ユニゾンやオクターヴでの重複のしかた、演奏に内在する力感の「軽さ」や「重さ」、などが問題となる。

[出典]

- ・目黒惇編（1983）『新訂合唱事典』 音楽之友社。
- ・浅香淳編（1991）『新訂標準音楽辞典』 音楽之友社。
- ・柴田南雄、遠山一行総監修（1996）『ニューグローブ世界音楽大事典』 講談社。
- ・小西友七、南出康世編集主幹（2006）『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著（1975）『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子、谷本一之、中川弘一郎共訳、全音楽譜出版社。
- ・カルドシュ・パール（1994）『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修、菅原恵利訳、全音楽譜出版社。

音楽科授業改善のためのデジタルコンテンツ【誰にもできるステップアップ教材】
わらべうた編&コーラス編 Volume 1

監督 寺尾 正
撮影・編集 佐藤 洋
スタッフ 青山 稚佳子 (AD) 竹下 裕来 (AD) 米谷 優 (技術) 山口 聖代 (作曲)
共同研究者 藤井 修 (作曲家)
協力 大阪教育大学附属平野小学校
大阪教育大学コーラスセッション
アンサンブル・ダッフォディル
音楽教育専攻学部生・大学院生によるコーラス
青山稚佳子 安藤公仁子 太田幸佑 大塚峻音 奥山貴之 神津裕士 木下紗也子 坂井マリ
四宮信徹 竹下裕来 早坂圭介 平野萌子 福田知里 米谷優 宮下暁子 山口聖代

スーパーバイザー 田中 龍三
プロジェクト顧問 木立 英行
プロジェクト代表 寺尾 正

制作 大阪教育大学音楽教育講座